

2025

3.5 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_gXnYfK9RRem8IdMNDmiklw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

新型コロナウイルスの 国際的分配から考える公衆衛生危機対応



3

すべての人に
健康と福祉を

10

人や国の不平等
をなくそう

17

パートナーシップで
目標を達成しよう

Key Words

公衆衛生危機

新型コロナウイルス

COVAX

国際保健外交

若林 真美 准教授

アジア・オセアニア研究教育機構

2024年10月より九州大学アジア・オセアニア研究教育機構の准教授（海外実装部門コーディネータ）。大阪大学で看護学を専攻し、同大学医学系研究科で修士（医科学）と博士（医学）を取得。社会疫学を専門とし、大学院時代にWHOやUNICEFでのインターンシップやオーストラリア国立大学での研究留学を経験。企業で開発コンサルタントやグローバルヘルス戦略コンサルタントを務め、名古屋大学で「アジアにおけるWell-being実現のための女性リーダー育成プログラム」に従事。国立国際医療センターのiGHPでは、飲酒問題の社会疫学、ODA trackerの開発、医薬品アクセス&デリバリーの研究に従事。2020年に外務省に派遣され、国際保健政策やCOVAXに携わり、その後UNICEFブラジルで脆弱な子どもたちへのワクチン接種プロジェクトを担当。

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による世界的な公衆衛生危機下において、国際社会における「ワクチンへのアクセスの不平等」が深刻な問題となりました。その課題に対応するために、国際機関を中心に「COVAX（COVID-19 Vaccine Global Access）」という新しい国際協調の枠組みが設立されました。COVAXとは、COVID-19ワクチンを複数国で共同購入し、低中所得国も含めて公平に分配するための国際的な枠組みです。本セミナーでは、COVAXとはどのような仕組みであり、どのような実績を残したのか、またその課題は何かを振り返ることで、今後の公衆衛生危機対応において、どのような対応が必要なのかについて考えます。

2025

3.12 (水) 12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_nNKqunA8SACRcKWvfNFqJQ

【技術支援】九州大学 Q-AOS

仮設住宅集会所「みんなの家」と建築学生が 取り組む被災地支援活動「KASEI プロジェクト」



Key Words

建築

仮設住宅

被災地支援

みんなの家

末廣 香織 教授

人間環境学研究院 都市・建築学部門

建築家 / 九州大学大学院教授 / NKS2 アーキテクツ共同主宰
1986 年九州大学大学院修士課程修了。1994 年ベルラーヘ・インスティテュート建築学大学院修了。1993 年ヘルマン・ヘルツベルハー建築設計事務所。1994-98 年九州大学工学部建築学科助手。1998 年 -NKS アーキテクツ共同主宰。2005 年 -九州大学大学院准教授。2022 年 -九州大学大学院教授。

東日本大震災から始まった集会所「みんなの家」の取り組みはと、熊本地震を契機に発足した建築学生の仮設住宅環境改善活動「KASEI プロジェクト」を中心に、被災地での建築的な支援活動についてお話しします。日本では、近年頻繁に大きな自然災害が起こっていますが、住む場所を失った方々の生活を支えるには、「ものづくり」と「ことづくり」を並行して進めてゆくことが大切です。こうした活動を通じて分かった建築に関わる課題や可能性について考え、最近大学で取り組んでいる BeCAT の活動についてもご紹介します。

2025

3.19 (水)

12:10
12:50

12:10-12:15

◆ 演者紹介

12:15-12:40

◆ プレゼン

12:40-12:50

◆ 質疑応答

オンライン
(Zoom)

登録はこちら▶▶

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_3J6V8Lq0Sq2AXWSkQeABOw

【技術支援】九州大学 Q-AOS

女性ホルモンと似た働きをする プラスチックの原料



Key Words

内分泌攪乱物質（環境ホルモン）

女性ホルモン受容体

ビスフェノール A

核内受容体

転写因子

遺伝子

転写

分子認識

化学物質影響

松島 綾美 教授

理学研究院 化学部門



1999年に九州大学理学部化学科を卒業しました。そして、2004年に九州大学大学院理学研究科を修了し、博士（理学）の学位を取得しました。日本学術振興会特別研究員として九州大学大学院医学研究院で働いたのち、2005年に九州大学の助手、そして助教、准教授を経て、2025年より九州大学教授として、理学研究院化学部門の構造機能生化学研究室を運営しています。その間、2009年にはカナダのダルハウジー大学でカタユウレイボヤを使った研究、2018年には米国のソーク研究所でマウスを使った研究を行いました。以前は、痛みに関わる神経ペプチドの化学合成や結合試験を行っていました。現在は、主に細胞の核の中で遺伝子転写を制御する、薬の標的となる核内受容体が有害環境化学物質でどのような影響を受けるのか、また、脳神経系でどのような働きをしているのか解析を行っています。こうした研究成果で、平成23年度文部科学大臣表彰若手科学者賞や日本生化学会奨励賞などを受賞しました。

ビスフェノールA (BPA) は、硬くて軽いプラスチックの原料として世界中で用いられています。しかし、女性ホルモンの作用を攪乱する有害環境化学物質としても知られています。そのため、BPAの代わりに化学物質が使われるようになってきました。一方で、体の中で起こるいろいろな作用は、ホルモンなどの物質と、それが標的とする受容体の結合ではじまります。そう考えると、ビスフェノールAの構造を利用して、女性ホルモン作用を上手く邪魔する化学物質をつくり、薬が作れるかもしれません。講演では、ビスフェノールAや、これと似た化学物質を取り巻く状況と、体の中のどの受容体に結合するのかに注目し、結合する分子の「形」に注目してお話しします。